

IV. 調査結果をみて

「泉佐野市地域福祉に関する市民意識調査結果」から見えてくるもの

泉佐野市地域福祉計画策定審議会委員
今井小の実（大阪体育大学健康福祉部助教授）

泉佐野市の地域福祉を推進していく上で今後の最も大きな課題だと感じましたことは、『援助を必要としている方』と、『援助者』（援助の提供をしたいと思っている方、サービスを実施する機関）とをいかにリンクさせていくかという点です。

泉佐野市の緊迫した財政事情については、周知のとおりです。地域福祉の推進のためにはある程度の予算の確保が必要かと思いますが、その点において、本市の場合はその出発点から予算上の制約を大きくうけているといえます。社会福祉の専門家として、あるいは審議会のメンバーとして、市民の方にとって素晴らしい地域福祉計画をと願うものですが、財政上の問題を思いますと必要性、可能性、有効性を勘案して計画を作成し実施すべきかと思えます。

しかし今回、調査結果のなかに希望の光を見つけることができました。それは、地域の潜在的な力です。「2. 地域における人間関係や暮らしやすさ」（11P～）の結果をみますと、大変、頼もしい数字が出ています。

例えば近所関係を問いかけた問 10 では、全体の 61.9%が結構、親密な近所つきあいをしていること（「近所にお互いの家を訪問しあう人がいる」26.3%、「会えば親しく話しをする人がいる」35.6%の合計）がわかります。これは、近所づきあいの形骸化を指摘される今日の日本の現状を考えますと、全国的なレベルからみても地域福祉を推進していく上で非常にいい条件が泉佐野市には潜在的にあるということがいえると思えます。

その良好なご近所関係は、実際にご近所で支援を必要としている方がいれば協力したいという気持ちにつながっています。問 13（22P～）をみますと、全体の数字は決して悪くない、特に「①話相手になる」、「⑥病気などの緊急時に看病をしたり、医者を呼ぶなどの協力をする」などについては、みなさん協力的であり、またその他の項目のいずれも協力したいという方の数字が協力してほしいというニーズより上回っています。

さらに問 16（33P）では、困っている人を見かけたとき力になりたいと思っている方が全体の 6割以上、7割近くいらっしゃいます（「積極的に力になるようにしている 19.1%、「求められたら力になるようにしている」47.1%の合計）。これは実に素晴らしいことではないでしょうか。

この恵まれた地域パワーを活かして、援助を必要とされている方と潜在的なサービスの提供者をつなぐパイプ役として社会福祉協議会が期待されるわけですが、調査結果からみえてきますのはその存在感が市民の方たちのなかで非常に薄いということ、その機能を十分に発揮できていないということです（「7. 社会福祉協議会について」）（86P～）。ボランティア活動の参加数が少なかったり、その他の活動にも参加したいと思わないという回答が多くなっているという結果となっています。ご近所レベルでは素晴らしい地域パワーがあるのですから、この力を市全体の福祉の推進力にまで上げられるような福祉のまちづくり、あるいは地域のニーズと提供者をつなぐコーディネータとしての役割をぜひ、今後の社会福祉協議会に期待したいと思います。

それからもう1つ、『援助を必要としている方』と『援助者』（機関）がうまくかみあっていない状況は、行政サービスの利用度の低さにもみられます「4. 行政サービスの利用について」（36P～）。せっかく多様なサービス（社会資源）があるのに利用されない、なぜこのような結果になるのか、その原因を追求し市民の方が少しでも利用しやすいような環境整備を求めたいと思います。

地域福祉には住民主体という原則があります。そこで主に市民の参加という側面から報告書を見てきたわけですが、やはり、どうしても行政の出番とならざるを得ない面もあります。「3. 日常の困りごとについて」（29P～）でみられる市民生活での困りごと、不安なことは行政の責任で解消、解決策を講じていくべき課題です。自由回答にも、市民の切実な思いがあふれています。ぜひ、そのような市民の意見を真摯に受け止めて、できる限り要望に応えてほしいと思います。

またアンケート調査で、災害への関心が高いという結果が出ています。防災に関して市民を生活者としてまるととらえ、そのニーズを把握し、横断的にサービスを提供できるようなシステムが必要だと思います。ぜひ、市民の生活をまもるために縦割りではなく横断的なシステムを創ってほしいと願います。

最後に、問9（10P）の『今後も現在の地域に住みたい』と答えた方の期待にどう応えていくか、一方で、『住みたくない』、あるいは『どちらとも言えない』と答えた4割近くの市民、その方々の心をどう泉佐野市へひきつけるか、ここにこの計画の目的があると思います。そうしますとこの計画の意義というものは、市民の方にとっては当然のことですが、市の将来にとっても非常に大きなものがあります。ぜひ、みなさんと一緒にすばらしい計画ができるようにがんばっていきたいと思います。